

子供の権利：国連の「恥のリスト」は恥

【訳者注】予想されたこととはいえ、アメリカとその“ならず者”同盟国の戦争犯罪を無視する国連報告は、虚報の限度を超えて滑稽である。日本を含め、世界各国がこれ信じて（信じたふりをして）行動するのと思うと、背筋が寒くなるではないか？ 「まさか」と疑う人は、同じサイトの別の論文「サウジアラビアの子供殺し：国連が人類に対する犯罪の共犯者」（Dr. Binoy Kampmark, “Saudi Arabia Killing Children: United Nations Complicit in Crimes against Humanity）など、同じ趣旨の数編の論文を参考にされるとよい。

Stephen Lendman

Global Research, June 19, 2016



国連の例年の報告書「恥のリスト」（List of Shame）は、「子供たちを集めて使役し、子供たちへの性的暴力に携わり、子供たちを殺した傷害を与え、学校と/または病院を攻撃し、保護されている役員への攻撃またはその脅迫を行い、子供たちを誘拐する」そのような国家や集団をブラックリストに載せることになっている。

それは常に変わらず、公平さのテストに落第している。シリアの自由のために戦う軍隊が、不名誉にも、このリストに載っているが、彼らは、多くの外国から連れてこられた、アメリカの援助するテロリストと、勇敢に戦っている人々である。

いかなる国家も、アメリカ、イスラエル、トルコ、サウジアラビア、それに彼らのならず者同盟者以上に、ブラックリストがふさわしい国家はない。

際限のないアメリカの、直接および代理による、戦争が、無差別に子供たちを殺し続け、多くの国の無数の、何百万という人々の命を奪い傷害を与えている。にもかかわらず、それは国連の「恥のリスト」には含まれていない。

イスラエルは、自分の思慮判断において、侵略戦争を仕掛けている。彼らは毎日の戦争で、全体で何百万というパレスチニア人を処罰し、子供たちを、大人と同じように悪意をもって残虐に扱い、冷血に不当に幽閉し、また殺している。しかし、それもブラックリストから外されている。

トルコは、自国のクルド族に、またシリアやイラクのクルド族に、民族抹殺的な戦争を仕掛け、この地域のいくつかの最も深刻な人権無視を、無差別に、全体にわたって行っている。この歴とした犯罪も、国連の標準からは、ブラックリストに載せるほどではないようだ。

イエメンは、サウジアラビアや、他の湾岸諸国、それにイスラエルと共同の、オバマの戦争で、彼がテロ爆撃を統制し、攻撃目標を選び、何百万という絶望的になったイエメン人に対し、スローモーの民族抹殺を行い、人民全体を危機に陥れている。

6月2日には、潘基文事務総長が、いわゆるサウジ主導の連合軍を、国連のブラックリストに含め、これは「子供たちに対する深刻な暴力」であり、彼らを「殺し傷害を与えるもので、学校や病院をも攻撃している」とした。

数日後、彼は方針を変え、サウジの殺し屋たちを免罪し、自分は圧力を与えられたのであり、それは「私のこれまでの決断で、最も苦痛で、困難なものだった」と主張した。

ここでも彼は、忠実な帝国主義の道具である証拠を見せ、犠牲者を非難し、むき出しの侵略を行う略奪者を無罪放免した。彼は、事務総長としての在職期間を通じて、ワシントンとそのならず者同盟者の、平和に対する最も明らかな犯罪を糾弾することはなかった。

ニューヨーク・タイムズ社説は、彼の共犯となる行動を支持し、馬鹿々々しくも、彼の立場は“報われないもの”だと言い、「潘氏をサウジの脅しに屈したものと非難するのは、…フェアではない…、彼はどうすることもできなかったのだ」と言った。

http://www.nytimes.com/2016/06/11/opinion/ban-ki-moons-thankless-position.html?_r=0

これは間違っている！ もしサウジの財政援助を失えば——もしそうなるとして——何百万の子供たちが“ひどく苦しむ”だろうと言うのは、子供たちがすべての（ほとんどアメリ

カが動機) 戦争の舞台で直面する、口に言えぬ恐ろしい出来事を無視するものである。

潘は、彼の行動に責任がある。カネは、子供たちに対して犯される大犯罪の問題を、解決することはできない。

アメリカの、NATO、イスラエル、サウジアラビア、その他のならず者パートナーと、共謀して行う侵略戦争を終わらせ、責任者を断罪することが、彼らの苦しみを終わらせる唯一の方法である。

被害を受ける、何百万の非戦闘員である男女もまた、同じ影響を受ける。

アメリカと、そのならず者パートナーたちこそ、毎年発行される、国連の「恥のリスト」のトップを占めるべきである——そしてその事務総長が、その責任を追及すべきである。

(スティーヴン・レンドマンはシカゴ在住、連絡先は lendmanstephen@sbcglobal.net 。編集者、寄稿者としての彼の新著は、*Flashpoint in Ukraine: US Drive for Hegemony Risks WW* III <http://www.claritypress.com/LendmanIII.html> ブログサイトは <http://sjlendman.blogspot.com/>)